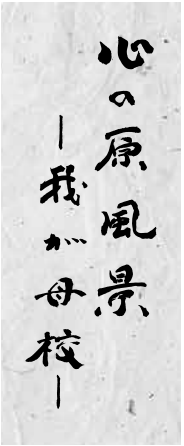

佐渡市立前浜小・中学校

平成24年度より前浜小学校・前浜中学校連携校としてスタートしました。今年度は、小学生22人、中学生11人の33人で連携校の良さを生かした教育活動・地域の特色を生かした教育を進めています。

小中連携校の良さを生かした教育活動の一つに「前浜ばやし」があります。以前は、「前中ばやし」として平成16年より中学生が演奏してきました。昨年度小中連携校のスタートに併せて、新たに「前浜ばやし」として合同運動会で披露しました。独自の「お囃子（はやし）」のある学校は県下でも珍しいと思います。

小学校では、5年生から篠笛の練習を始めます。休み時間に中学生から吹くときの姿勢・音の出し方・指使いなど、丁寧に教えてもらいます。中学生の手ほどきを受け、小学生の腕も上がっていきます。低・中学年の子どもたちは、「前浜ばやし」の演奏に合わせて演技を行います。小中学生が一体となって和楽器を演奏する「前浜ばやし」は佐渡の伝統芸能にも通じる、まさに前浜小中学校オリジナルの芸能文化です。

前浜ばやし

また、地域の特色を生かした教育活動に「ふれあい体験学習」があります。水津漁業研究会と水津魚家女性部などが主催して毎年6月に実施しており、今年で21回目になります。小学生と中学生が一緒に参加し、佐渡地域振興局の方からの海に関する講演を聞いた後、イカさばきや漁船乗船体験、活魚のふれあい体験等を行います。「毎年行っているので上手にイカをさばけるようになりました」「漁師さんからたくさんのことを教えてもらい勉強になりました」など、海の恵みや漁業に携わる人々の思いにふれ、子どもたちにはふるさとのすばらしさ、佐渡を誇りに思う心が育っています。

今後も地域の特色を生かした教育を一層推進していきます。

ふれあい体験学習

◆教育委員会学校教育課（両津支所内）☎23―4898

佐渡ジオパーク

ジオパーク、推進日記 ㉛

海女さんとたらい舟

アジアでジオパークに取り組む地域が集まる大会が、韓国の済州島で開かれ、佐渡ジオパークから2人が参加し、教育分野におけるジオパークの取り組みについて紹介しました。

開催地となった済州島は、生物圏保護区、世界自然遺産、世界ジオパークの3つの事業に取り組む「ユネスコトリプルクラウン」を持つ島で、佐渡のお手本となり得る島です。

ジオパークの視点から見て共通する部分は、済州島は火山島であるため、その海岸風景は、大昔の海底火山によって形成された小木半島の海岸とよく似ています。

では、小木半島でよく見られる「たらい舟」は、済州島でも存在するのでしょうか。正解は、見られません。その代わり済州島には大勢の海女さんがいて、海女さんの博物館もあります。火山島である済州島は、雨がすぐに地下にしみ込む土地であるため、大きな川も無く、稲作ができず、粟や麦などを食べていた時代もあったそうです。そこで、島の人々、特に女性は豊富な海産物を求めて海へ出て生活を支えていました。

一方のたらい舟、小木半島の集落では「桶を半切り」にして使い始めたことから「はんぎり」と言われています。この地で発展したのは、いくつかの要因があります。隣町の羽茂に樽職人や味噌会社があったこと、材料となる木材や竹が豊富だったこと、そして、浅瀬が広がる岩礁地であったことなどの理由が考えられます。

似た景色を持つアジアの中であっても、島をつくっている大地が違うと生活様式や文化まで異なってくるのです。つまり、私たちの現在の生活は、大地と深く関わっているのです。その繋がりを実感することのできる場所が、ジオパークです。

小木のたらい舟

私たちは「たらい舟」というと小木というイメージがわきますが、島外の人にとっては、島のどこでも使われている乗り物に感じているかもしれません。普段、当たり前に見て、聞いて、食べているものであっても、島の外の世界から見たら貴重で珍しいものが周囲に溢れています。皆さんも探してみませんか。

◆教育委員会社会教育課ジオパーク推進室（両津郷土博物館内）☎23―2101